

潜頭分離式空調システム紹介

ビルと工場の「近未来空調」を訴求



齊藤 一成 部長

業務用・産業用空調システムメーカーの木村工機（社長＝木村晃氏、本社・大阪市中央区上本町西5-3-15）は「ENEX2025 第49回地球環境とエネルギーの調和展」に出展する。出展は「ENEX2023」

以来2年ぶりの回目となる。今回の出展では、「KDWH式潜頭分離空調システム」による新しいビル空調と「工場用陽圧換気空調システム」による大空間用潜頭分離空調を

紹介。環境負荷の低減を前提に、自然力や自然寄りの技術を活用し、空調機と外調機を併設して、温度、湿度、気流、清浄度といった空気要素を確実に調和するオフィスビルと工場の近未来空調を訴求する。

展示コンセプトには「ビルと工場の新・潜頭分離空調システム」を掲げた。事業推進本部営業推進部の齊藤一成部長は出展に際し「環境への負荷を減らしながら、居室空間や作業空間で人々が健康に過ごすための空調システムおよび技術を発信する。当社で長年提案してきた『潜頭分離空調システム』を日々アップデイトしている点をご紹

介することで、省エネ・快適性・品質向上・熱中症対策など社会における様々な課題解決に貢献できることを提案することほどもより、当社の空気調和に対する理想や理念にどこまで共感いただけるかを確かめてみたい」と話す。

潜熱（外気）と顕熱（還気）を別々に処理し、省エネや快適性向上につながる潜頭分離空調について同社は着実に実績を積み重ねてきた。その原点は1998年に開発した

潜頭分離空調システムの提案を推進している。業界を取り巻く環境が大きく変わろうとしている今、温度、湿度、気流、清浄度といった空気要素を調和する「空気調和」の本来的姿を会場にただぐさきまじりつかりと示していく（同）と力を込める。

同社がオフィスビル用空調市場に向けて昨年10月から展開している最新の潜頭分離空調が、今回のENEX展で紹介する「KDWH式潜頭分離空調システム」になる。同システムは、冷温水空調や水冷ヒートポンプ（HP）などの水を用いた空調機とHP外調機を同社独自のデジタル制御技術でシステム全体を制御するもの。ベスト・エアフ

フォーム（1）潜頭分離式ゆらぎ放射空調システム、ベスト・エアフォーム（2）2層熱源式ゆらぎ放射空調システム、ベスト・エアフォーム（3）2管H型式ゆらぎ放射空調システムの3つのスタイルで構成。ベストエア

フォーム（1）潜頭分離式ゆらぎ放射空調システムでは、令和6年度省エネ基準（BEI110・8）空調一次エネルギー消費量に対して、同社試算では30%以上のエネルギー削減率を実現する。他方、工場用空調市場に向け2022年6月から発売開始した空調システムの「工場用陽圧換気空調システム」である。同社定番製品の1つである「工場用ゾーン空調」と「工場用オールフレックス外調機」を組み合わ

せたシステムで、暑熱対策と効率的な換気を実現し、工場内環境を改善するもの。自らもメーカーであり製作所を有する木村工機は「会社と直接的な利益を生み出す場所とは製造現場。そこで働く従業員を守るためにも工場こそ快適な空間にするべき」との考えを持つ。その考えが製造業や倉庫業を営む企業などから共感を博しており、引き合いも増えているという。

齊藤部長はブース展示に関して「パネル展示が込めた。